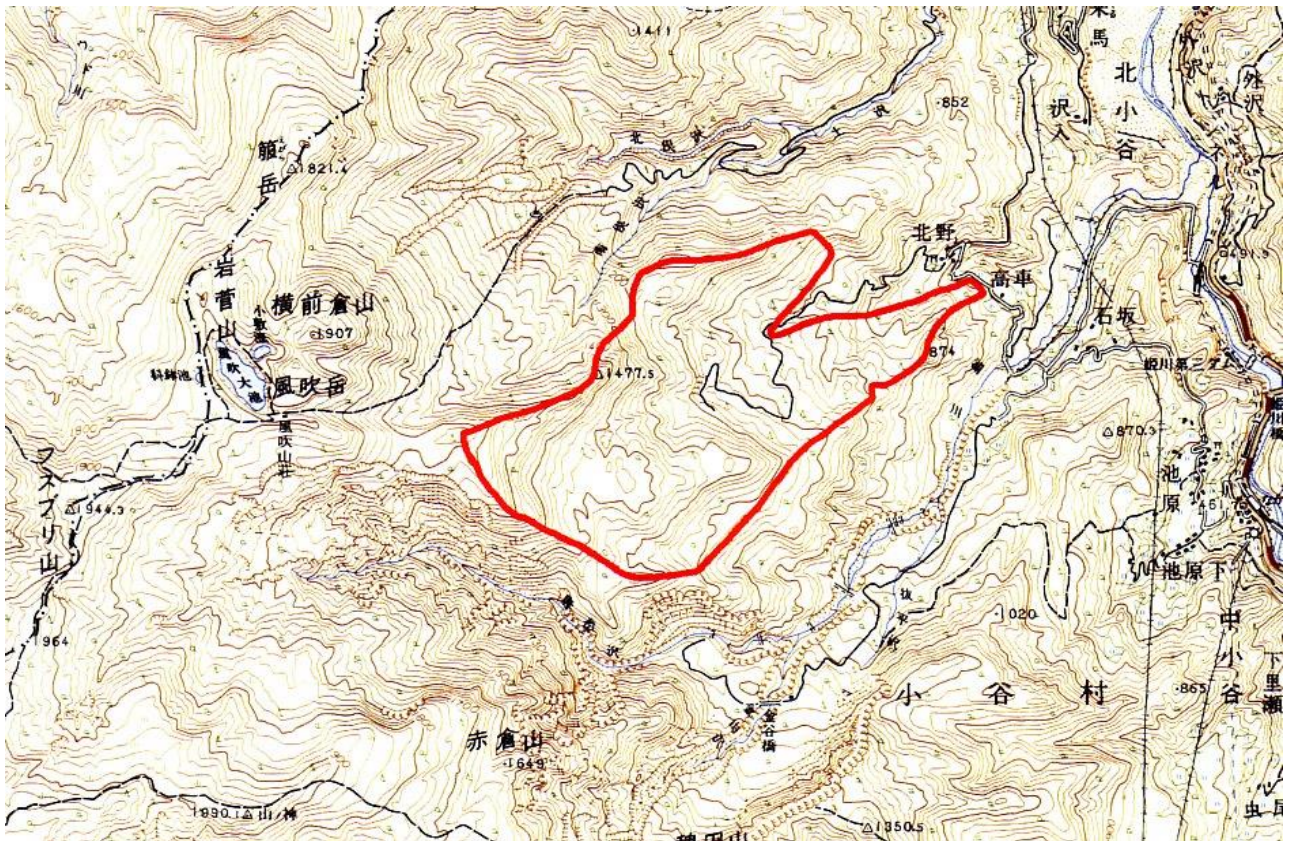


# 南小谷県有林



この地図は、国工地理院発行の5万分の1地形図(白馬)を使用したものである。

## <沿革>

南小谷県有林は小谷村の北西、北アルプス風吹岳の裾野に広がる県有林で、標高640mから1,200mに位置しています。創設は明治43年7月31日でそのほとんどが未立木地の私有林を購入しました。

大正年代にスギを13ha植栽したほかは天然更新による広葉樹が生えていましたが、県庁舎建設が始った昭和39年から昭和46年まで広葉樹を伐採しました。現在ある人工林の7割はその後植栽されたものです。

## <現況・特色>

スギを主体とした林分であるものの、殆どのスギが、多雪地帯のため極端な根曲がり呈しており、優良材の生産が見込めないことから、ブナ等の有用広葉樹の育成も含め、今後の施業方法を模索しています。

県有林利活用推進事業により、平成20年、地区住民により設立されていた「深山遊園北野の郷(みやまゆうえんきたののさと)」との協定が締結され、利活用が行われてきました。

また林内の散策、道の刈払が住民の方々により行われ、地域に開かれた県有林として活用されています。



スギ林現況



きのこ生産体験



林内散策



### <森林整備の方向>

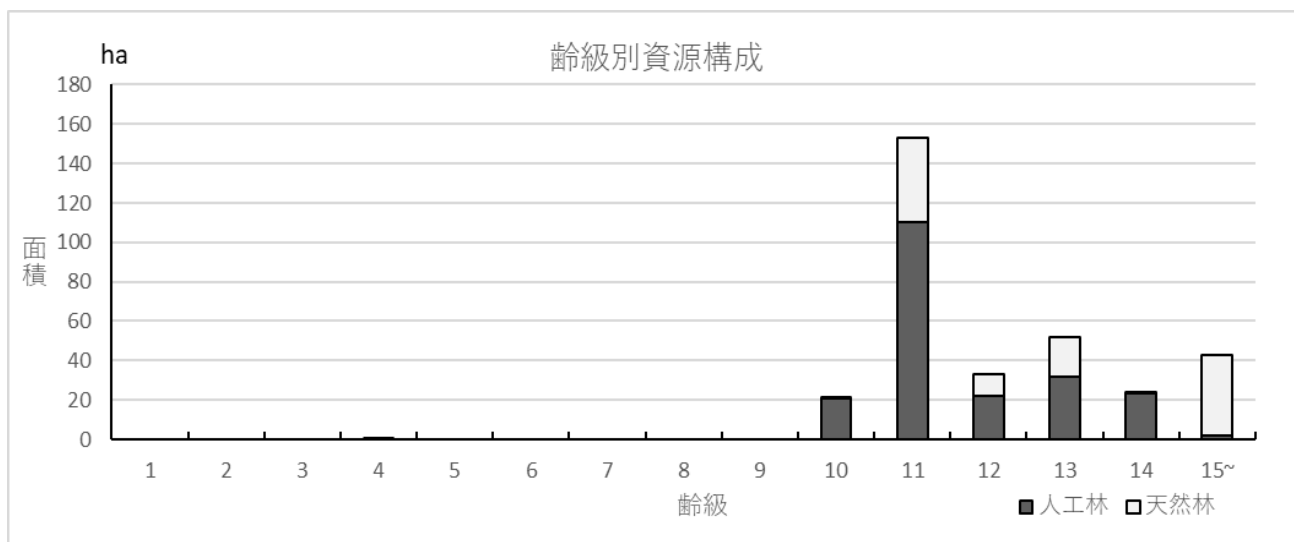
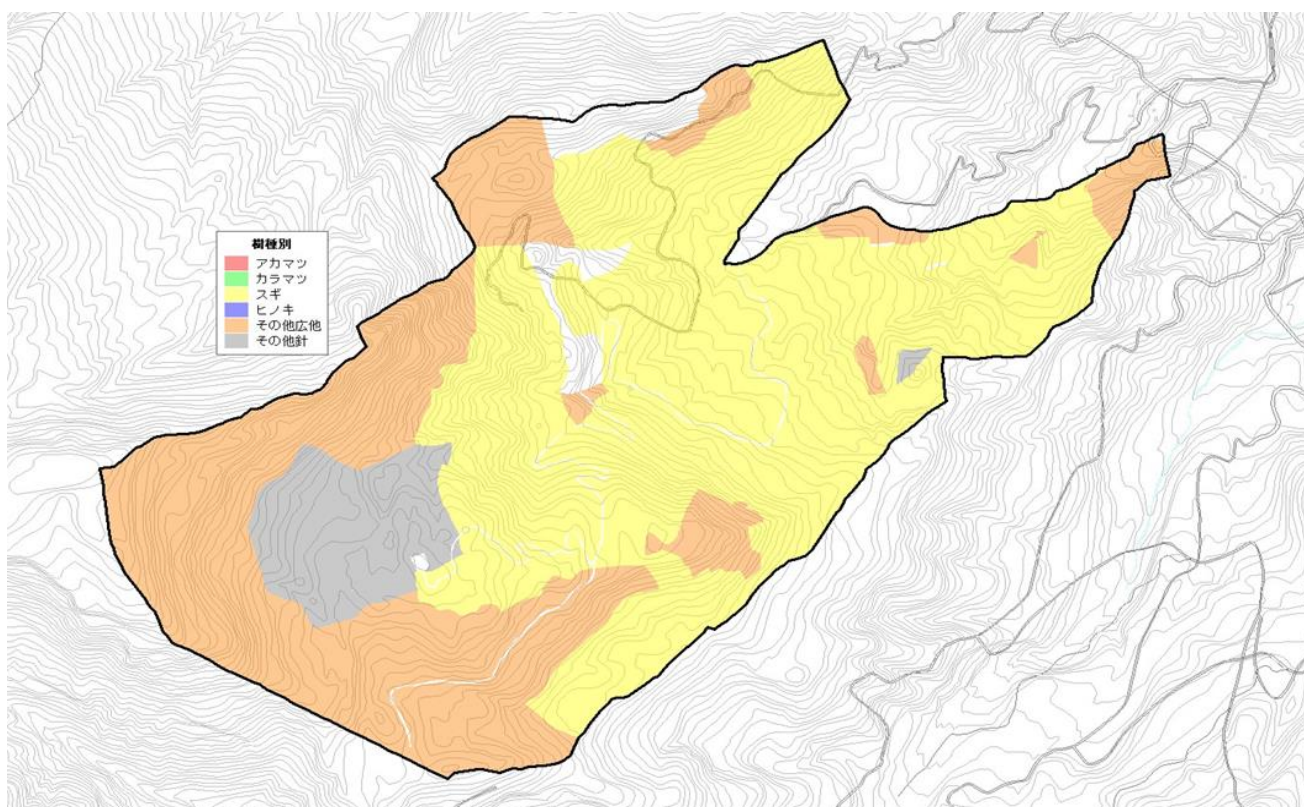
当県有林は、地位が低く多雪地帯のため、公益的機能の発揮を重視した施業を実施するとともに、奥地林施業として、上層木のスギを適宜抜き伐り、有用広葉樹の天然更新を促進します。

また、天然広葉樹の利用や山菜などの副産物の取り扱いについて検討します。

### <樹種別資源構成>

単位：ha

面積	スギ	アカマツ	ヒノキ・サワラ	カラマツ	その他針	その他広	除地・保残帯
335.17	182.3				27.79	81.96	43.12
100%	54%				8%	24%	13%









### <森林整備の方向>

当県有林の東側（1～4林班）は地形が急峻なため、保残帯として設定しており、原則として施業は行いません。西側（5～7林班）は、上層木のスギを適宜抜き伐り、有用広葉樹の天然更新を促進します。また、天然広葉樹の利用や山菜などの副産物の取り扱いについて検討します。

### <樹種別資源構成>

単位：ha

面積	スギ	アカマツ	ヒノキ・サワラ	カラマツ	その他針	その他広	除地・保残帯
411.77	108.23					70.64	232.9
100%	26%					17%	57%

